

平成22年度 学術情報リテラシー教育担当者研修
大阪会場（10.20）東京会場（11.17）

学術情報リテラシー教育 における企画力

同志社大学企画部企画室・企画課長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上真琴



本日の焦点

学術情報リテラシー教育における 企画力

自学の教育体系に応じた
学術情報リテラシー教育
プログラム



「何が」できるようになればよいのか？

プログラム内容の再検討

本当に教育との連携できているのか？

教学との連携の接点

どうすれば円滑な実施ができるのか？

運営方法の工夫

ま と め

学術情報リテラシー教育の企画力を高めるには、

1. ツールスキルでなく、ツールを使う「考え方」や情報源の「可用性」に焦点を当てていく。
 2. 「人はどう学ぶのか」=学習科学・教育学の理論や知見を学ぶ。
 3. FD活動と高等教育改革の文脈のなかで学術情報リテラシー教育を位置づけることを意識する。
-

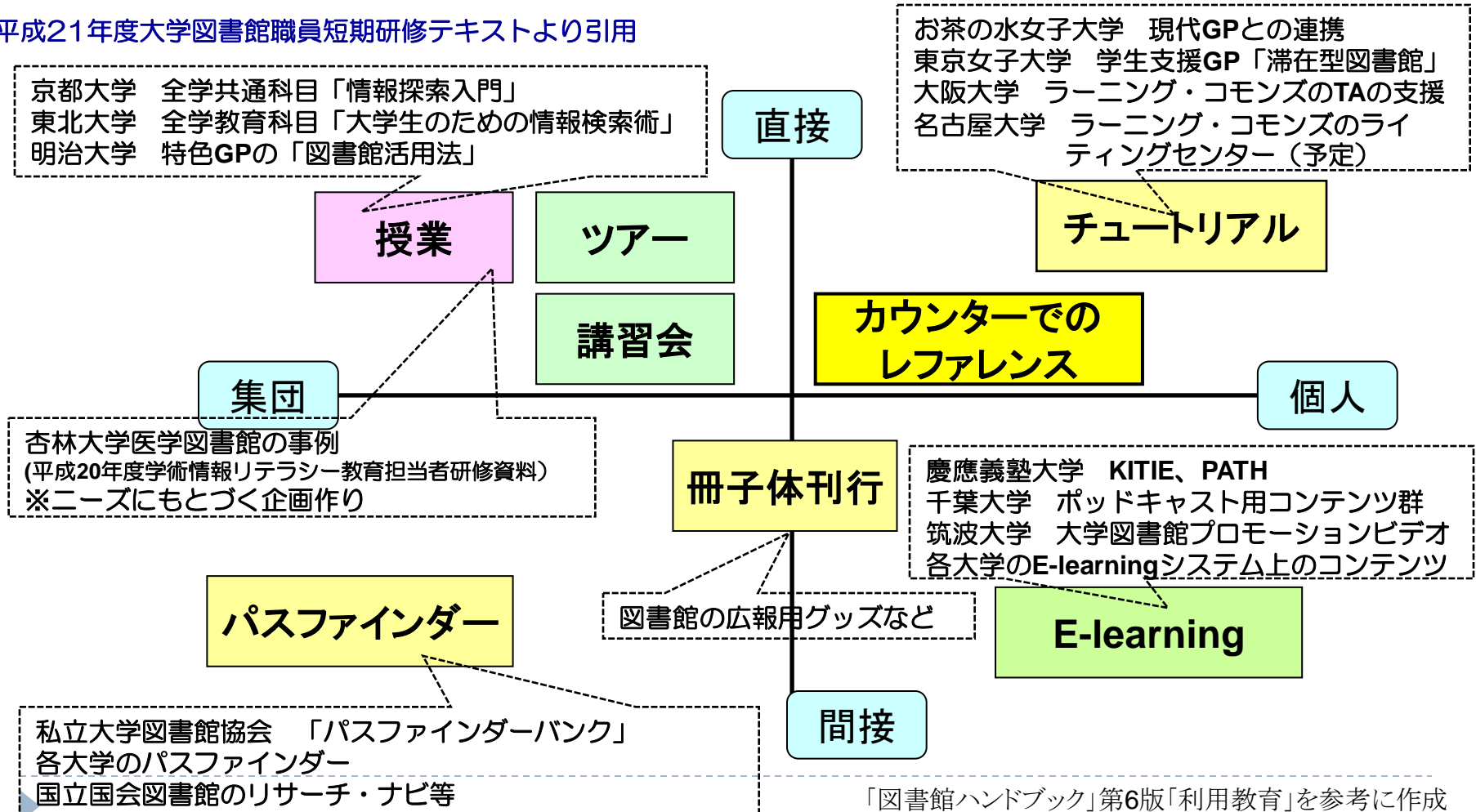


I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

学術情報リテラシー教育のいろいろ

■ 現在の大学における情報リテラシー：代表的な実践例

平成21年度大学図書館職員短期研修テキストより引用



「図書館ハンドブック」第6版「利用教育」を参考に作成

I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

全国大学での実施状況

◎情報リテラシー教育の有無 73.4%あり

1. 正課授業 : ※教員と図書館員の関わり方
 - 1) 「科目関連型」: 一部に図書館が協力
 - 2) 「科目統合型」: 全部に図書館が協力
 - 3) 「独立型」: “情報リテラシー”に特化した科目に協力
2. 課外講習 : 図書館実施の情報リテラシー教育
 - 1) 「図書館オリエンテーション」
 - 2) 「データベース利用教育」
 - 3) 「教育支援・レポート作成支援」

参考：筑波大学編. 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究

(図書館)報告書. 2007,

<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf>

(参照 2010-09-26)

I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

情報リテラシー教育の動向と運営の指針

野末俊比古. 研究文献レビュー: 情報リテラシー教育: 図書館・図書館情報学を取り巻く研究動向. カレントアウェアネス. 2009, No.302. <http://current.ndl.go.jp/ca1703>, (参照2010-09-26)

日本図書館協会図書館利用教育委員会編. 図書館利用教育ガイドライン合冊版: 図書館における情報リテラシー支援サービスのために. 日本図書館協会, 2001, 81p., ISBN: 4820401157

※自学の教育方針に応じて参照する



I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

講習会プログラム「情報探索の技」の体系

	企画・構成 仕様確定	講師
入門・初級(4コース) 役立つ図書館活用術	図書館スタッフ (初年次教育コースと連動)	委託
初級編(4コース) 30分でわかる	図書館スタッフ	図書館スタッフ
初級編 読んでみよう!	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(3コース) 90分でバッチリ	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(5コース) プロが教える	委託	委託

印象付け

操作の道筋

思考の道筋

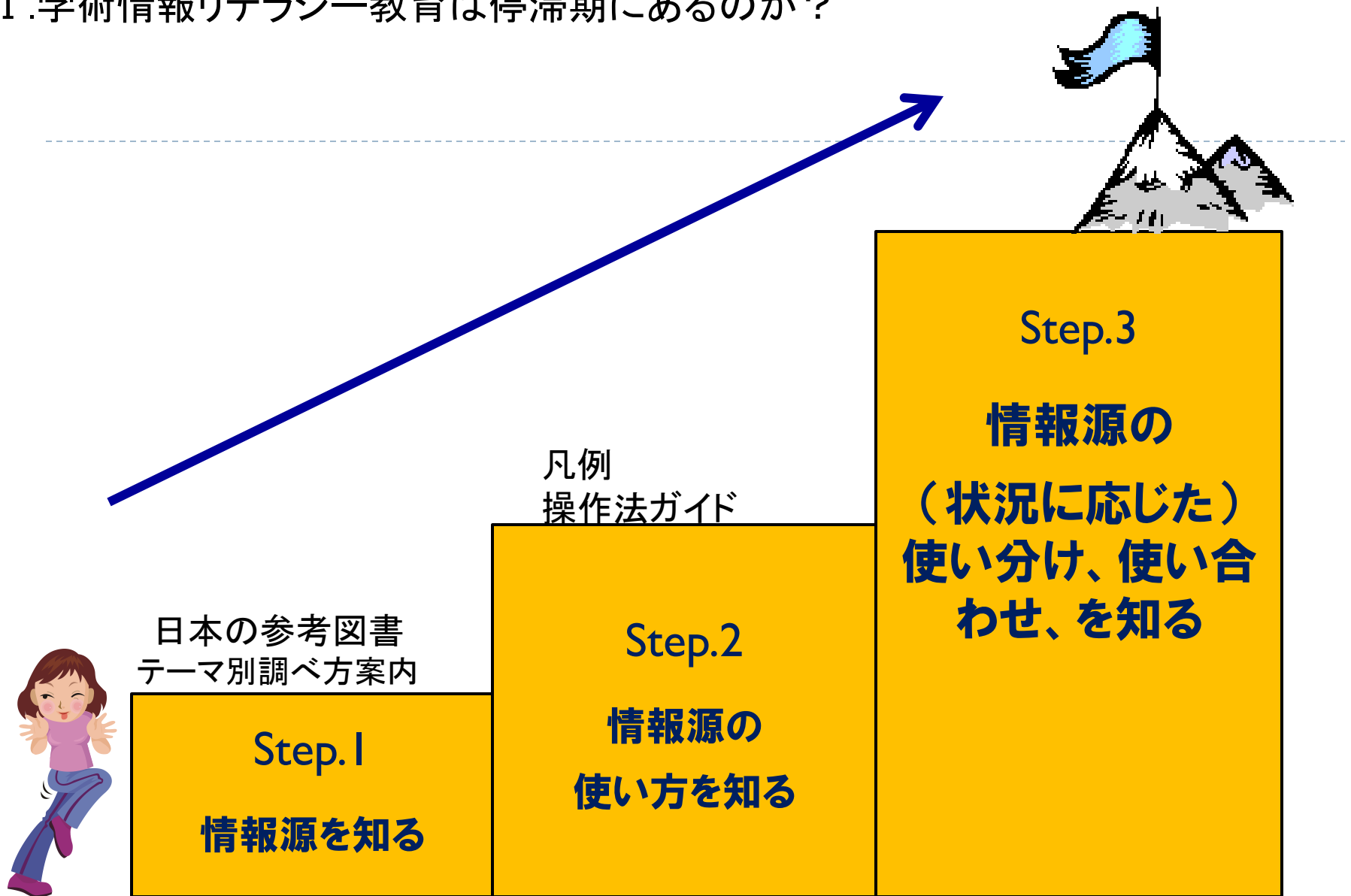


I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

焦点をどこにおくか？

スキルの種別	印刷体資料	電子化資料 (データベース/フリーサイト)
1.情報源を知る (何があるのか)	<ul style="list-style-type: none">・『日本の参考図書』等のガイドブック・各種主題別紹介資料・書誌・目録	<ul style="list-style-type: none">・OPACの存在・ポータル参照・パスファインダー参照
2.情報源の使い方を知る (どう使うのか)	<ul style="list-style-type: none">・凡例読解・編集方針/編集形態	<ul style="list-style-type: none">・検索方法/検索スキル・インデクシング方法・各種演算子
3..総合化した情報源利用 (なぜ使うのか,どう組み合わせるのか)	<p>調べ方の「考え方」：メタ思考 ↑ 調べながら考え、考えながら調べる</p>	

I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

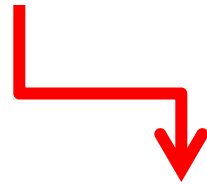


情報環境の変化と情報リテラシー

情報探索の「多様な方法」「多様なソース」

「多様なチャンネル」「容易化」

図書館は、数ある情報探索・収集のチャンネルの1つでしかない。



- ▶ 方法やソース、チャンネルの交通整理
- ▶ 適切な評価と使い分け

「資料の提供」から「探索と活用の考え方」の提供へ



I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

野末先生の言説 《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう)情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(と捉えたい)。

野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.



I. 学術情報リテラシー教育は停滞期にあるのか？

情報リテラシーの定義

情報リテラシーを持っている人は、つまるところ、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように構造化されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他人が自分の成果を撮取して学んでくれるかを知っている。

また、どのような作業や判断においても必要な情報を見つけてることができるので、生涯を通じて学んでいく。

*ALA, Presidential Committee on Information Literacy,
Final Report (1989)*

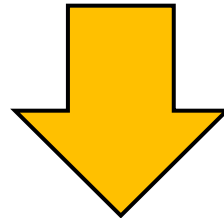
※Knowing how to learn , Learning how to learn

⇒ 中教審「学士課程教育の構築に向けて(答申)」と同心円

課題 1 : 学術情報リテラシー教育を 学習支援の視点から捉える

○コンピュータ利用、情報探索・情報検索に関わるスキル

情報入手するには、入手するためのツール(道具)をよく知り、その使い方を学ぶことである。



○ツールスキルから学習スキル/アカデミックスキルへ

上記に加え、入手した情報・資料の可用性を検討したり、批判的に読み解き分析して、具体的な知的成果物を創造するプロセス全体に亘るもの(=問題解決能力)をプログラム化



課題2：学術情報リテラシーを獲得できる学習環境を提供する

話題の《ラーニング・コモンズ》

- ・創造的空間として物理環境
- ・学習の文脈に応じた人的支援

参照：井上真琴.「学びのマネジメント」を支援する.
IDE.2009,no.510, p.11-15.



ゆきづまりと喫緊の課題

◎教育との結びつきの希薄さ

- ▶ 効果がきわめて限定的
- ▶ 教育手法の問題／情報リテラシーを備えるべき,主体的な問題解決型の学習がない。
- ▶ 図書館がどのように,学生の学習成果の実現に寄与できるのか。

文科省ヒアリングでの永田治樹先生のご指摘(2005.2.15)

「Ⅱ. 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」

(科学技術・学術審議会 2006.3)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015/011.htm

※「学びの身体技法」獲得の支援(Learn “how to learn”)

※教育理論・学習理論を知る必要あり(How do students learn?)

新しい教育手法の登場

学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法(アクティブ・ラーニング)を重視し,例えば,学生参加型授業,協調・協同学習,課題解決・探求学習,PBL (Problem/Project Based Learning)などを取り入れる。大学の実情に応じ,社会奉仕体験活動,サービス・ラーニング,フィールドワーク,インターンシップ,海外体験学習や短期留学等の体験活動を効果的に実施する。学外の体験活動についても,教育の質を確保するよう,大学の責任の下で実施する。

「学士課程教育の構築に向けて(答申)」



欧米と日本の学術情報リテラシー教育の違い

学習支援に必要な能力

- ▶ 支援するひとが、学習科学(「人はどう学ぶのか」)とインストラクショナル・デザインを学んでいる。
- ▶ 教員の教授法・教育手法を理解している。
 - ・アンカード・インストラクション,
 - ・ジグソーメソッド,
 - ・その他

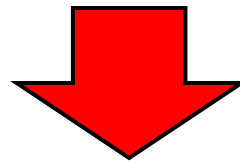
上記のことに基づいた設計と運営 ⇒ 事例へ!



教育から学習支援へ

教育コンセプトのパラダイム転換

「知識の伝授」(授業)



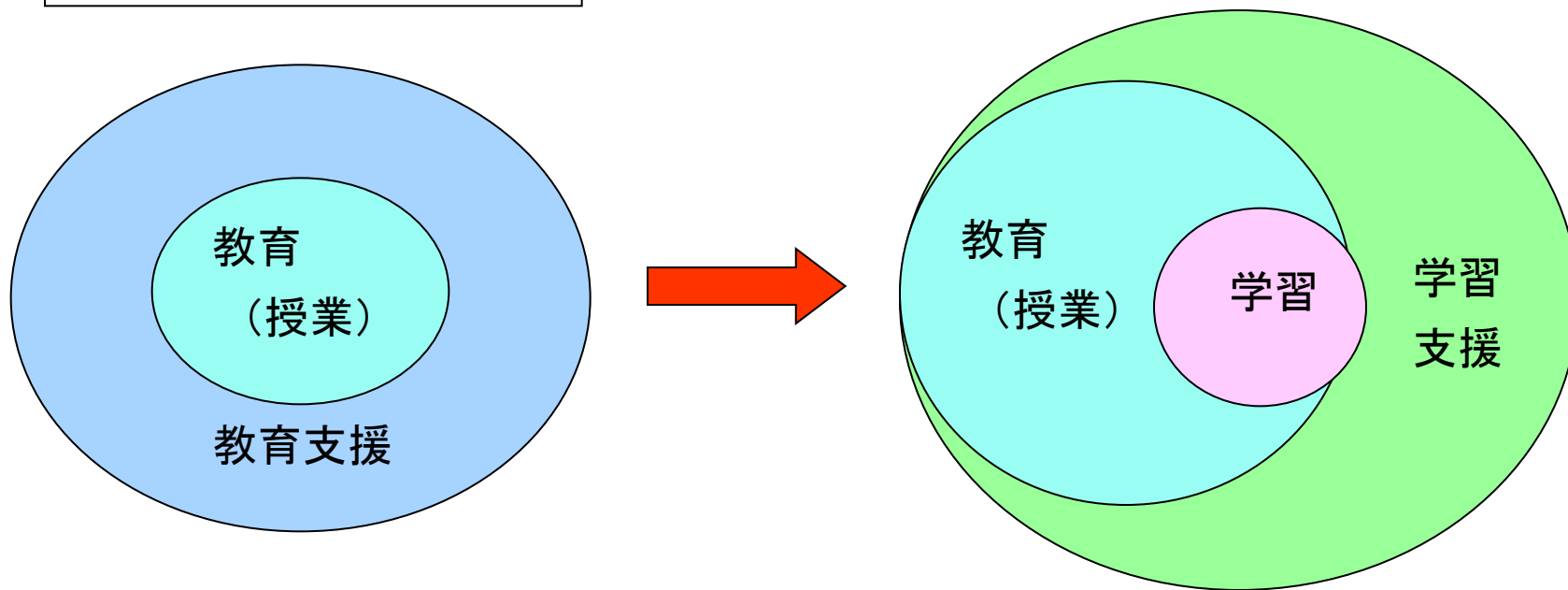
学習者自らの「創造性開発」(学習支援)

※教育(=授業) と学習支援が対等な関係



学習中心の教育コンセプト

大学教育概念の変化



学習支援にシフトした背景

▶ 高等教育のグローバル化

高等教育の国際通用性(教育の質保証)

Learning Outcomes重視:「~ができるようになる」

▶ 高等教育のユニバーサル化

全入化と18歳人口の減少(進学率56.8%)

▶ 社会の情報化:知識基盤社会

知識の伝授よりも知識の探索と創造



例えば、単位の実質化（１）

単位：Credit（信用！）

1単位の授業科目は、標準的に15時間の授業と30時間の準備学習や復習の時間を合わせて45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。

大学評価・学位授与機構

『高等教育に関する質保証関係用語集』

http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/package/no9_21_niadue_glossary_2009.pdf

※文部科学省の「大学証明」での不安（詐欺の片棒を担ぐ？）



F D活動の活発化と研修内容

F D(ファカルティ・ディベロプメント) =
教員の組織的な教育力向上に向けた持続的な活動

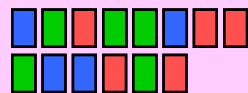
- ▶ わかりやすいシラバスの書き方
 - ▶ 授業デザインを学ぶ
 - ▶ 授業アンケートのフィードバック方法
 - ▶ クリッカーを利用した効果的な授業実践
 - ▶ PBL,TBLの授業方法
 - ▶ 学生のやる気をださせる話し方講座
 - ▶ よい学習行動を導く「課題の与え方」
-



II. ブレークスルーはどこにあるのか

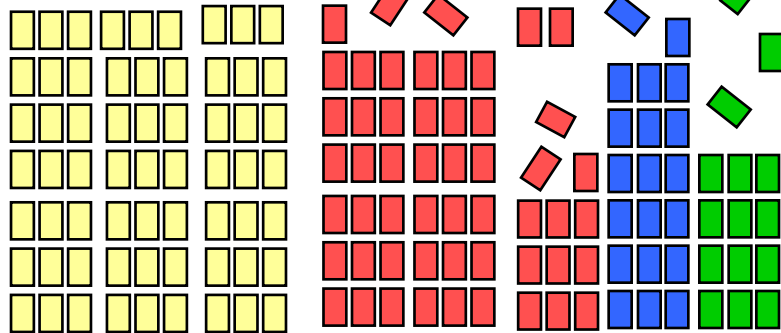
学習（学ぶ）とは何か ≡ 情報リテラシー

データ読み込み



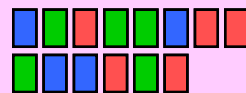
決められた構成定義（スキーマ）
どおりインデクス化

インデクス形成



データベース

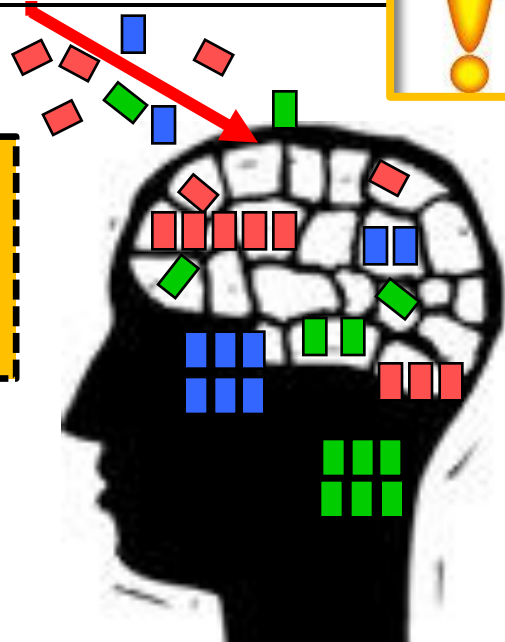
情報取得



- ① その都度その都度、
- ② 構成定義（スキーマ）を再定義し、
インデクスの再編成を行う



スキーマ：
情報の関係づけ
意味づけ
整理方法



頭の中の認識データベース

今後のプログラム開発の焦点

- ▶ 実際の問題解決の文脈に埋め込んだプログラム開発・実施の方向へ

- Course-Related Approachが可能な領域(初年次教育など)

- Active Learningが意識されている領域(PBL科目など)

- ▶ 図書館活用を組み込んだ教育改善(FD活動)の提案ができる能力を

- FDのアプローチを取り入れたプログラムの試行

-----▶ リエゾン・ライブラリアン？

井上真琴. FDとの接点から図書館を視る. 丸善ライブラリーニュース. 2009, no.7・8, p12-13. http://www.maruzen.co.jp/business/edu/lib_news/backnumber20091110.html(参照2010-09-26)

